

II

社会福祉学部教員の教育活動 (教育研究活動年度報告書)

川崎 育郎

Ikuro KAWASAKI

○研究活動

(1) 臨床活動

スクールカウンセラー活用調査研究事業におけるスクールカウンセラー

高知市の中学校でスクールカウンセラーとして臨床活動を行い、生徒、保護者や教員などへのカウンセリングを定期的に実施する。(2007年4月～2008年3月)
高知県内の保育園・幼稚園、小学校・中学校からの相談を受理し定期的に心理治療的援助を実施する。(2007年4月～2008年3月)

子ども相談室 香南市教育委員会の協力を得、ゼミの学生と共に子ども相談室を開き、保護者からの相談を受理し子どもや保護者にカウンセリングなどを実施する。(2007年4月～2008年3月)

日本自閉症協会高知県支部夏季療育キャンプ (2007年8月)

(2) 講演や研修会講師

高知市教育研究所 研究会助言者

2007年4月～2008年3月

高知市障害児保育担当者研修会講師「障害のある子どもの理解と発達援助について」
高知県ふくし交流プラザ 高知市主催(4月)

南国市十市保育園職員研修「カウンセリングの研修(家庭支援充実のため)」(4月)
四国地区児童自立支援施設に併設された分校・分教室研修会講師「これからの児童自立支援のあり方について」四国地区児童自立支援施設分校連絡会主催(5月)

高知市立とさやま保育園保護者研修会講師「子育てについて」(6月)

いの町家庭教育学級講師「心育ての家庭教育」神谷小学校 いの町主催(6月)

室戸市立室戸岬中学校校内研修会「LD・ADHDとはなにか、対応について」(6月)

高知市立中野保育園園内研修会講師 高知市主催(7月)

南国市不登校を考える会研修会講師「不登校に陥った子どもの理解と支援」南国市役所 南国市教育委員会主催(10月)

高知市立種崎西保育園園内研修会講師 高知市主催(10月)

高知市立大津保育園園内研修会講師 高知市主催(11月)

高知市立とさやま保育園保護者研修会講師「子育てについて」(12月)

平成19年度子育て支援者ネットワーク交流会講師「子どもの心が聴こえますか～子どもの支援を考える」四万十市中央公民館 高知県幡多福祉保健所主催(2月)

津野町家庭教育学級講師「子どもの不適応行動の理解と支援について」津野町教育委員会主催(2月)

○教育活動

(1) 講義

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| 1. 「臨床心理学Ⅰ」 | 2. 「臨床心理学Ⅱ」 | 3. 「カウンセリング論」 |
| 4. 「カウンセリング演習Ⅰ」 | 5. 「カウンセリング演習Ⅱ」 | 6. 「障害児発達学」 |
| 7. 「心理検査法」 | 8. 「社会福祉専門演習Ⅰa」 | 9. 「社会福祉専門演習Ⅰb」 |
| 10. 「社会福祉専門演習Ⅱa」 | 11. 「社会福祉専門演習Ⅱb」 | |

臨床心理学Ⅰ・Ⅱは選択科目であるが学生の関心は高く、2回生全員が臨床心理学Ⅰを受講した。学生の受講態度は良好であり事例の話やビデオには強い関心を示し、講義の理

教育研究活動年度報告書

解に大きな役割を果たしたようである。障害児発達学は、社会福祉学部の2回生と看護学部1回生が受講した。選択科目であったが、社会福祉学部2回生はほとんどの学生が受講し、障害のある子どもへの関心の強さが窺われた。看護学部の1回生もほとんどの学生が受講し、熱心に聴講した。当講義においても、学生の評価では事例の話とビデオが大変参考になったようである。

学生達は、講義形式の授業も熱心に聴講したが、心理検査法、カウンセリング演習Ⅰ、カウンセリング演習Ⅱのロールプレイやゼミの研究発表、討議などにも強い学習意欲を示した。社会福祉専門演習Ⅰa,b(ゼミ:3回生7名)では文献を用いて児童の理解や援助における基本的なことを学習させた。12月には東海地方の情緒障害児短期治療施設と同志社大学での研修を実施した。社会福祉専門演習Ⅱa,b(4回生)では、そのまとめとして卒業研究論文を作成させ、その指導を行った。本年は4名のゼミ生の卒業研究論文の指導を行った。ゼミにおける教育の一環としてゼミ生(3,4回生)を定期的な相談活動に参加させ臨床的経験(養育者との面接や児童とのプレイなど)を与え児童の問題に対する理解を深めさせた。

○委員会活動(学部委員会を含む)

1. 高知女子大学評議会 評議員
評議員として大学運営に参画
2. 社会福祉学部人事委員会委員
3. 社会福祉学部入試委員会委員

○社会的活動

(1)学会での活動

日本心理学会専門別議員
中国四国心理学会理事

(2)その他(各種委員会委員など)

高知県児童福祉審議会委員長
高知県障害者就学指導委員会会長
高知県福祉基金理事
高知県青少年問題協議会委員
高知県こどもの環境づくり推進委員会委員
社会を明るくする運動 高知県実施委員会委員
高知県児童虐待死亡事例検証委員会委員
高知市の子どもと教育を考える会委員
高知県・高知市スクールカウンセラー
高知市教育研究所教育相談員
高知県臨床心理士会 監査

○総合的評価及び今後の課題

教育的活動や社会的活動について概ね計画していた活動ができたと思われる。研究活動の内臨床的活動において、さまざまな不適應な状態にある子どもへの心理治療的援助や障害のある子どもへの発達の援助と、それぞれの家族や保育者・教員へのカウンセリングのニーズが数多くあった。緊急性や必要性の高い内容が多く、研究活動の重点を相談活動におくことになった。臨床活動にゼミ生を参加させ実際の経験をさせたことは、学生の教育には多大な効果があったように思われる。今まで積み上げてきた臨床経験を授業に役立たせ、地域貢献にもより生かせるようにしたい。

前山 智

Satoshi MAEYAMA

○研究活動

内外の研究活動

福祉情報技術に関する情報収集とそれらを情報関係授業に生かすために、電子情報通信学会の「福祉情報工学研究会」に出席した。

○教育活動

講義

1 「コンピュータリテラシー」(共通教育情報科目)

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの情報演習室において、新入生を対象とした8クラス(文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2)を担当し、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の操作を中心に実習形式で授業を行った。情報科目を必修として履修してきた 2006 年度の新入生のアンケート結果などを参考にして、2007 年度は PowerPoint の操作も取り入れた。出身高校によって情報科目の履修内容・時間が異なっているため、パソコン操作の習熟レベルが異なる新入生のレベル合わせを主眼とした授業内容に改善した。

2 「情報と社会」(共通教育情報科目)

池キャンパスにおける後期の講義を担当したが、受講生は看護学部の学生のみであった。2007 年度は、これまでの講義内容を整理・再編して、テキストも利用して情報倫理に関する講義を大幅に追加した。

3 「福祉情報演習」(社会福祉学部専門科目)

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として位置付けて、Word、Excel、PowerPoint の操作のステップアップを図るために、実践的なスキルを学習する実習形式の授業を後期に行った。

4 「特別講義Ⅴ(データ解析論)」(大学院人間生活学研究科共通科目)

生活科学部谷本教授と分担して担当し、主として Excel の統計関数やピボットテーブルを用いたデータ処理に関する実習形式の授業を行った。

○委員会活動

1 運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3 学部人事委員会、学部自己点検委員会

人事委員長として、昇任人事を検討して教授会に提案した。自己点検委員長として、2009 年度に受審する大学認証評価に向けて、社会福祉学部の 2006 年度を対象とした自己評価書を作成した。

2 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、社会福祉学部の推薦入試や一般入試の円滑な実

教育研究活動年度報告書

施に努めた。また、県内だけでなく県外の中四国で開催された進学相談会に積極的に出席して、社会福祉学部のPRと志願者の確保に努めた。

○社会活動

- 1 高知県ふくし交流財団生きがい・健康づくり推進協議会委員
- 2 身体障害者療護施設 アドレス・高知 苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、研究には時間が割けていない。

社会福祉学部長としての課題は、凍結されている社会福祉学部拡充計画(介護福祉士養成課程を導入して学生定員と教員数を倍増)を実現して、中四国においてNo.1の公立大学社会福祉学系学部へと発展させることである。

教育活動においては、情報通信技術やその利用技術の急速な進歩という社会環境と新入生は既に高校で情報教育を履修しているという状況に対応して、2007年度は授業内容を改善したつもりであるが、大学における共通科目としての情報系科目の位置付けや教育内容を根本的に検討することが必要であるとも感じている。

住友 雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

①学術論文 なし

②著書

住友雄資 (2007) 『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデルー対人援助職の成長プロセス』金剛出版.

住友雄資 (2007) 「生活保障のための法規」佐藤光源・丹羽真一・井上新平編『統合失調症の治療』朝倉書店, 164-166.

住友雄資・田中英樹・谷中輝雄編 (2008) 『改訂 精神保健福祉援助演習』中央法規.

③学会等発表 なし

④その他 なし

⑤学内外資金獲得

学長特別粋研究・事業助成 (代表者 住友雄資「高知県における社会福祉士及び精神保健福祉士のための地域内研修システムの構築」30万円.)

○教育活動

[学部]

- ・「福祉研究法Ⅰ」
 - ・「福祉科教育法Ⅰ」
 - ・「福祉科教育法Ⅱ」
 - ・「事例研究法」
 - ・「ケアマネジメント論」
 - ・「精神保健福祉援助技術各論」
 - ・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」
 - ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」
 - ・「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
 - ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」
 - ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」
- (ゼミ生5名)

[大学院]人間生活学研究科 (修士課程)

- ・人間生活論演習Ⅱ
- ・スーパービジョン論
- ・課題研究演習 (正指導教員4名,
副指導教員3名)

[大学院]健康生活科学研究科 (博士後期課程)

- ・精神障害者福祉論
 - ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- (主指導教員3名,
副指導教員9名)

○委員会活動

[学部]

- ・教務委員長 兼 FD委員長
- ・社会福祉研究倫理専門審査委員長

教育研究活動年度報告書

- ・ 人事委員
- ・ 自己点検委員
- ・ その他／学部長とともに私学・大学支援課との学部再編協議をおこなう

[全学]

- ・ 教務副委員長

[大学院] 人間生活学研究科（修士課程）

- ・ 学位審査委員長

[大学院] 健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・ 学務委員（社会福祉学領域）
- ・ 入試実施委員

○社会的活動

[学会や審議会など]

- ・ 精神保健福祉士試験委員
- ・ 日本社会福祉学会 査読委員
- ・ 日本精神保健福祉士養成校協会 理事兼事務局次長兼広報委員長
- ・ 高知県社会福祉審議会 委員長
- ・ 高知保護司選考会 委員
- ・ 高知県精神医療審査会 委員

[講演など]

省略

○総合評価と課題

通常 of 学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）に加え，学部再編に関わる事項が増え，それへの対応に終始した一年間であった．具体的には，社会福祉士及び介護福祉士法改正による指定科目変更に関する情報収集と対応策であり，玉突きで精神保健福祉士の指定科目変更が予定されることとなり，多忙を極めたという印象が強い．

もちろんよい教育のためにも，多忙ということを使い訳にせず，自分自身の研究活動もきちんとなしていききたい．そのようななかでも，自らの博士論文をリライトして金剛出版から単著を刊行できたことは評価ポイントである．研究としての一区切りができたことと，来年度からは次の研究課題に取り組むこととしたい．

学部全体は若手主体で活動的な教員組織になったが，学部再編を控え，教育・研究活動の枠組みを再編することになる．そのためか，昨年度に引き続き，スーパービジョン的な業務が増えてきた．

田中 きよむ

Kiyomu TANAKA

○研究活動

(1)著書 (共著)

荒川智・越野和之編 『障害者の人権と発達』全国障害者問題研究会出版部 2007年8月
(第13章「社会保障構造改革と障害者自立支援法」 pp.209-222 を執筆)

(2)論文・報告書

- ・障害者自立支援法施行後の実態調査研究会 『障害者自立支援法と高知県の実態』
高知県自治研究センター、2008年3月 (研究会座長として報告書全文執筆)
- ・田中きよむ 「住民主体のまちづくりと地域福祉(活動)計画 ―公共性と地域再生の手がかり―」平成19年度高知女子大学学長特別研究助成 (研究代表)
『高知発 地域福祉実践 研究報告書』2008年3月、pp.1-18

(3)学会発表

- ・田中きよむ 「社会保障構造改革と障害者自立支援法」四国財政学会第43回研究会 (2007年5月)
- ・田中きよむ 「人間の福祉と社会保障―アマルティア・センの福祉経済理論によせて―」
日本福祉図書文献学会第10回全国大会基調講演 (2007年9月)
- ・田中きよむ 「障害者自立支援法の影響と高知県の実態」四国財政学会第44回研究会 (2007年12月)

(4)受託研究

文部科学省初等中等教育局児童生徒課「問題を抱える子ども等の自立支援事業」
研究課題名：「子どもの状況把握の方策及び関係機関連携による効果的対応」
(2007～08年度)

研究代表者：榎並谷哲夫

研究分担者：田中きよむ及び佐川町教育委員会

○教育活動

(1)学部

(専門教育)

- 1.社会保障論Ⅰ・Ⅱ
- 2.社会福祉行財政論Ⅰ・Ⅱ
- 3.社会福祉専門演習Ⅰ―a・b
- 4.社会福祉専門演習Ⅱ―a・b
- 5.公的扶助論Ⅰ・Ⅱ
- 6.社会福祉法制論

(共通教育)

- 1.オムニバス「土佐の健康と福祉」
- 2.オムニバス「福祉の世界」

(2)大学院

(修士課程)

- 1.福祉行財政論
- 2.オムニバス「人間生活福祉政策論」
- 3.課題研究演習Ⅰ・Ⅱ

教育研究活動年度報告書

○委員会活動

- ・(学部) 人事委員会委員、研究倫理審査委員会委員
- ・(全学) 入試監査委員会委員長(学部)、入試監査委員会委員(大学院)
- ・(全学) 総合情報センター運営委員会委員

○社会的活動

(委員等)

- ・高知県社会教育委員
- ・運営適正化委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 60 年史作成委員会副委員長
- ・地域福祉活動推進委員会委員
- ・福祉サービス第三者評価事業推進委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉(活動)計画アドバイザー
- ・高知県ユニットケア研究会会長
- ・高知県地域福祉研究会代表
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡協議会会長
- ・社会福祉法人第三者委員、NPO 法人理事長
- ・「高知の移動サービスを考える会」世話人
- ・「高知女子大学・高知短期大学の未来を考える会」代表世話人
- ・「県民が考えるマニフェストをつくる研究会」代表世話人
- ・「高知県視覚障害者の就労を促進する会」副会長

(講演等)

- ・民生委員児童委員協議会幡多ブロック研修会講演「ともに支えあう地域のしくみづくりと民生委員児童委員の役割」(2007 年 4 月)
- ・南国市保育研修会講演「保育所制度改革と認定こども園」(2007 年 6 月)
- ・自治体問題研究所「小さくても輝く自治体フォーラム」分科会報告「少子高齢化と住民主体のまちづくり」(2007 年 6 月)
- ・高知県生活協同組合連合会講演「高知県における地域づくりと生協への期待」(2007 年 6 月)
- ・土佐清水市地域福祉講演会コーディネーター(2007 年 7 月)
- ・全国保育団体連絡会四国ブロックシンポジウムコーディネーター(2007 年 7 月)
- ・三原村保育講演「認定こども園と保育所制度のゆくえ」(2007 年 7 月)
- ・高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」講師(2007 年 7 月)
- ・全国障害者問題研究会第 41 回全国大会(埼玉)分科会助言者(2007 年 8 月)
- ・高知県保育運動総会講演「社会福祉制度改革と保育所のゆくえ」2007 年 8 月)
- ・ひかり協会高知支部学習会講師「利用できる公的福祉制度について」(2007 年 8 月)
- ・公民館研究集会(第 30 回中国・四国地区)分科会助言者(2007 年 9 月)
- ・社会教育主事等研修(中部教育事務所管内ブロック)講義「団塊の世代と社会教育～地域づくりと関わって～」(2007 年 9 月)
- ・介護福祉士養成講座講師(2007 年 9 月)

- ・高知脳外傷リハビリテーション講習会コーディネーター (2007年10月)
- ・高知女子大学社会福祉学部レカレント教育講座「障害者自立支援法と高知の実態」講師 (2007年10月)
- ・県民が考えるマニフェストをつくる研究会シンポジウム①・コーディネーター (2007年10月)
- ・「民生委員制度創設90周年シンポジウム」シンポジスト (2007年10月)
- ・第34回障害者問題を考える四国集会パネルディスカッション「障害者をめぐる雇用状況について」パネリスト (2007年10月)
- ・高知県公民館研究大会幡多地区大会基調講演「住民の支え合い・学びあいによる幸せのまちづくり」 (2007年11月)
- ・県民が考えるマニフェストをつくる研究会シンポジウム②・コーディネーター (2007年11月)
- ・「高知市民の大学」講師「台湾の高齢者福祉」 (2007年11月)
- ・高知県社会福祉大会鼎談「住民同士の支え合いの仕組みづくり」 (2007年11月)
- ・高知県相談支援従事者「現任」研修「障害者福祉の動向について」講師 (2007年11月)
- ・高知女子大学社会福祉学部レカレント教育特別講座「医療制度改革と介護のゆくえ」講師 (2007年11月)
- ・高岡地区社会教育委員連絡協議会秋期研修会講演「次世代を育む、学校・家庭・地域社会の協働に向けた八策について」 (2007年11月)
- ・老人ホーム組合研修講座「高齢者福祉制度について」 (2007年11月)
- ・高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座「認定こども園と保育所制度のゆくえ」講師 (2007年12月)
- ・高知市町内会連合会高齢者福祉研修講演「福祉とまちづくり」 (2007年12月)
- ・安芸市保育所職員研修講演「認定子ども園と保育所・社会保障制度のゆくえ」 (2008年1月)
- ・高知県精神障害者地域生活支援施設連絡会定例研修会講演「変わりゆく障害者自立支援法の影響と高知の実態」 (2008年1月)
- ・高知県自治研究センター「障害者自立支援法の抜本改正を考えるシンポジウム」基調報告・コーディネーター (2008年1月)
- ・佐川町福祉大会記念講演「住民主体の幸せのまちづくりと地域福祉活動計画」 (2008年2月)
- ・土佐清水市地域福祉研修会講演「高知県内の地域福祉(活動)計画の取り組み状況と今後の展望ー新しい公共性と地域再生の手がかりー」 (2008年2月)
- ・中央地区選挙管理委員会連絡協議会講演「県民参加型マニフェストづくりの試み」 (2008年3月)
- ・労農大学(本山町)「後期高齢者医療制度の特徴と問題点」講師 (2008年3月)
- ・高知県人権啓発活動ネットワーク協議会及び高知地域人権啓発活動ネットワーク協議会講演「障害のある人の生活と権利をめぐる高知県内の動向と課題」 (2008年3月)
- ・佐川町長寿大学「住民の幸せのまちづくりと地域福祉活動計画」 (2008年3月)
- ・安芸地区公民館連絡協議会研修会講演「地域づくりと公民館活動」 (2008年3月)
- ・高知県ユニットケア研究会設立総会パネルディスカッション「高知発のユニットケアを目指して」コーディネーター (2008年3月)

教育研究活動年度報告書

(研修)

- ・福祉サービス第三者評価者指導者研修（全国社会福祉協議会 2007年9月）修了

○総合評価と課題

- ・研究面では、十分な成果があげられなかったもので、反省しつつ、来年度に臨みたい。
- ・教育面では、講義に関しては、下級学年で身につけたはずの素養が上級になって希薄化している場合も見られる。社会保障制度面に関する知識と理解能力を持続的に深め高めていけるような創意工夫が必要であり、来年度においては、学生の知的好奇心を常に喚起する工夫をしてゆきたい。卒論指導に関しては、制度論よりも地域福祉論の方に関心が強い傾向が見られたので、地域調査研究能力の育成にも考慮した指導を図ってゆきたい。
- ・社会的活動は、充実していたと言える。地域ニーズや生活問題の多様化に伴い、活動領域の広がりが見られる。

吉野 由美子

Yumiko YOSHINO

○研究活動

(1) 学術論文

- 1 吉野由美子「町田病院におけるロービジョンケアの現状」 眼紀 58 374～378 2007
- 2 吉野由美子「視覚障害児に関する教育・福祉施設と制度の歴史的展開—現在の視覚障害児に関する教育・福祉の現状を理解するために—」 日本ロービジョン学会誌 7 63-68 2007

(2) 学会発表

- 1 「視覚障害を併せ持つ重症心身障害者のケアに対する留意点—視覚からの情報を有効に入手できるようにするために—」 第33回日本重症心身障害学会 ポスター発表 2007年9月27・28日 高知市
- 2 「ロービジョンケアに対する理解を進めるための啓発活動の現状と課題—高知県における活動を中心に—」 第49回弱視問題研究大会 研究発表 2008年1月17日 札幌市

(3) 学会シンポジウムコーディネーター

- 1 シンポジウムテーマ「地域で働く視覚障害者生活訓練指導員の現状と課題」 第8回日本ロービジョン学会・第16回視覚障害リハビリテーション研究発表大会合同会議 2007年9月23日

○教育活動

(1) 講義

社会福祉学部の専門科目では、1年生の前期に「現代生活と社会福祉」を担当し、児童福祉論Ⅰ・障害者福祉論Ⅰ・社会福祉史Ⅰを2年生前期で、児童福祉論Ⅱ、障害者福祉論Ⅱ、社会福祉史Ⅱを2年生後期で講義した。又、共通教育科目「福祉の世界」の責任者として前期6コマ、「土佐の健康と福祉」の責任者として前期2コマ担当した。

(2) 演習科目と実習

4年生担当科目として社会福祉専門演習Ⅱで卒業論文指導を行った。

○各委員会活動（学部委員会を含む）

- 1 全学部的には、広報委員として、オープンキャンパスの企画を行った。また、紀要編集委員として紀要の編集を行った。
- 2 社会福祉学部においては、学部広報担当として学部のオープンキャンパスの企画運営、高校生のための講座やリカレント講座の企画運営の補助を行った。また、紀要編集担当として、学部の紀要原稿の募集、編集を担当した。

教育研究活動年度報告書

○社会的活動

①講習会・講演会活動

- 1 2007年6月9日 「女性として障害を持って生きる」
ノートルダム清心女子大学公開講座（岡山市）
- 2 2007年7月21日 「視覚障害のあるケースに出会ったときの対処の仕方について」
高知県医療社会事業協会月例研修会講師（高知市）
- 3 2007年8月29日 「障害者自立支援法体制の中の障害者医療について」
高知県教育委員会学校保健関係者研修会講師（高知市）
- 4 2007年8月30日 「教育活動に役立つ視覚障害者理解」
高知市鴨田小学校職員研修会
- 5 2007年10月25日撮影、11月放送 高知ケーブルテレビ「エキスパート」
「見えにくい人（ロービジョン者）の話」
- 6 2008年2月2日 「教育・福祉・医療の連携の必要性とその実現のために」
第9回全国視覚障害児早期教育研究会講演
- 7 2008年2月4日 「これから大学進学を目指す後輩へのメッセージ」
岐阜盲学校教員と生徒の合同学習会講師（岐阜市）
- 8 2008年2月12日・19日 「手話通訳士養成講座基礎課程身体障害者福祉概論・ソーシャルワーク論」
聴覚障害者協会手話通訳士養成講座基礎課程講師

②依頼された審議会など

- 1 高知市障害者計画推進協議会委員を委嘱 平成12年3月25日
委員長に選任される
- 2 高知県障害者施策推進協議会委員を委嘱される 平成12年5月
- 3 高知県医療審議会委員命ずる 平成12年8月1日
- 4 社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会委員
平成12年11月1日から現在に至る

本年度は、大学の業務との関係で、「運営適正化委員会」をはじめ各委員会にあまり出席できず、十分に役割を果たせなかった点が、心残りであり、来年度への課題と考えている。

③ 視覚障害リハビリに関する活動

県担当の視覚障害者生活訓練指導員が2名体制となり、通常の相談業務などは安定充実して来たので、視覚障害と他の障害を併せ持つ人たちの問題など、新しい課題についての研究、広報活動に力を入れた。

○総合評価及び今後の課題

私のライフワークである「視覚障害リハビリテーション」に関する実践活動に重点をおくと共に、障害児の教育問題、障害者自立支援法実施に伴う問題などについての啓発活動にも力点を置いた。また、学会発表、執筆活動にも力を注ぐことができ、研究活動・地域貢献活動においては満足のいく成果が得られたと自己評価している。

教員としては、本年度は卒業学年を担当していたこともあり、学生一人一人の進路相談にも乗り、手応えとやりがいを感じると共に、指導の困難さ、教員としての力量不足も痛感させられた1年であった。

宮上 多加子

Takako MIYAUÉ

○研究活動

(1) 論文

宮上多加子(2008)「高齢者福祉施設職員の認知症ケアに関する認識の変容プロセス—初任介護職員に対するインタビューの分析を通して—」『高知女子大学紀要社会福祉学部編』57, 1-13.

宮上多加子(2007)「施設任せで積極的にかかわろうとしない家族へのアプローチ」『認知症介護』8(3),131-136.

(2) 学会発表

宮上多加子(2007)「高齢者福祉施設職員の認知症ケアに関する認識の変容プロセス」第15回日本介護福祉学会大会(埼玉).

○教育活動

講義の概要

[学部]

1. 「介護概論」「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」

「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」では、学内および学外での体験型授業や視聴覚機器を用いた内容を多く取り入れた。

2. 「保健福祉論」「母子保健論」

本年度より「高齢者保健論」と「母子保健論」を交代で隔年開講とし、H19年度は「母子保健論」を開講した。履修者は22名であった。また、「保健福祉論」は保健福祉の総論的位置づけの科目であるが、隔年開講に伴い学生の履修希望をふまえて科目の内容を一部変更した。

3. 「ケアマネジメント演習」

事例を用いて演習形式により講義を実施した。

4. 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・b」

本年度の受講者は4名である。研究活動に関する基礎的な力を身に付けることができることを目標とした継続的な指導とともに、学外での研修会参加や春季休業を利用して東京都内の高齢者福祉施設の見学などを行った。

5. 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」

本年度の受講者は5名である。なお、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱの実施内容の詳細については、ゼミ記録として冊子にまとめた。

6. 「保育学(実習および家庭看護を含む)」

生活科学部にて開講されている科目であり、文化学部北川明教授と分担して担当した。

[大学院(人間生活学研究科)]

1. 「介護福祉論」

介護福祉に関係した理論および資格制度・教育の変遷を解説し、介護福祉が果たす役割と課題に関する検討を行った。

教育研究活動年度報告書

2. 論文指導

正指導教員としてM1生1名、副指導教員としてM1生1名、M2生5名を指導した。

○委員会活動

[学部]

1. 総務・予算委員会（委員長）
2. 教務委員会（教職部会委員）

[大学院（人間生活学研究科）]

1. 学務委員（社会福祉領域）

○社会的活動

1. 高知市民生委員推薦会委員
2. 日本地域福祉学会地方部会委員
3. 日本認知症ケア学会生涯学習委員会四国部会委員
4. 高知県福祉基金理事

○公開講座等

1. 高知県社会福祉協議会介護福祉士養成講座講師（10月）

○総合評価と今後の課題

今年、大学改革の見通しが不明確な状態で中断している一方、「社会福祉士及び介護福祉士法」改正に伴う養成カリキュラムの変更が明らかになっていく中で、学部創設10年目を迎えた本学部における教育を評価し、再検討していく時期であったように思います。個人的な教育面の評価においては、専門演習や大学院の指導において一定の成果を得たものの、学部の講義内容に関しては、学生の主体性を引き出すという意識を持って、教授法を再検討すべきであると考えています。

研究面においては、「認知症介護実践力」に関して、これまで取り組んできた家族介護者から高齢者福祉施設の介護職員を対象とした研究へと発展させ、学部および大学院の教育に反映させていくことが必要であると考えています。介護福祉士の養成教育および生涯教育として認知症ケアに関する教育・研修内容を組み込み、大学教育における介護福祉教育を構築していくことも必要であると思います。

学部運営に関しては、総務・予算委員長として学部予算での備品・物品の購入と管理にかかわる業務や、学部活動の統括業務を担当しました。業務内容に関しては、印刷費用の削減や学生の学習環境の改善等について取り組みました。ただし、将来ビジョンを展望した学部棟内の設備・備品の整備等については、次期の総務・予算委員会に引き継ぐ課題がいくつか残っています。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○ 研究活動

(1) 論文

- ・ 「オーストラリアの高齢者ケアにおける質の規制－認証制度を中心に」高知女子大学紀要社会福祉学部編、第57巻、pp.29-43、2008年3月

(2) 学会発表

なし

(3) 報告書

- ・ 「平成19年度長寿科学総合研究事業（厚生労働科学研究費補助金）H16-長寿-029『介護老人保健施設及び介護療養型医療施設における経営実態及びマネジメント実施状況に関する研究』総括研究報告書」（主任研究者・小山秀夫）2008年3月：分担執筆部分「高齢者介護施設のコンプライアンス：オーストラリアおよびイギリスにおける事業者のコンプライアンス確保に向けた方策」
- ・ 社団法人シルバーサービス振興会 「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業 報告書」2008年3月：分担執筆部分「介護経営品質指標（案）の具体的内容」

(4) 研究資金の導入

- ・ 平成18年度ユニバーサル財団研究助成（『豊かで活力ある長寿社会の構築をめざして』①長寿社会における社会保障制度・政策、経済）「高齢者の主体的な参加による高齢者保健医療福祉分野のガバナンスの構築に向けて－イギリスの事例を中心に」（平成18～19年）

○ 教育活動

(1) 学部

(1) 「社会福祉概論Ⅱ」「社会福祉概論Ⅰ」

社会福祉に関わる基礎的な概念と歴史的発展および現在の社会福祉制度、事業、実践活動等を包括的に捉えるため、社会福祉士国家試験問題の活用や年表・ワークシート等の教材を作成し、知識の定着を図ることに主眼をおいた。

(2) 「女性福祉論」

女性と雇用、子育て支援と育児休業制度、介護休業制度、母子世帯、高齢女性の貧困と年金、中国の女性、女性の性的搾取等の問題を取り上げた。講義の一部は、学生が自ら関心のあるテーマを主体的に調べ、発表する演習方式でおこなった。

(3) 「国際福祉論Ⅰ」

近年の先進4ヶ国の介護制度改革を取り上げ、各国の歴史的文化的社会的コンテクストと改革の示す価値理念に言及し、比較の視点を涵養するように努めた。

(4) 「社会福祉専門演習Ⅰ－a・Ⅰ－b」受講者4名。

(5) 「社会福祉専門演習Ⅱ－a・Ⅱ－b」受講者7名。

(6) 「女性の生活と健康」（オムニバス）

格差社会と女性、母子世帯の生活実態と所得保障について取り上げた。

教育研究活動年度報告書

(2) 大学院人間生活学研究科

- ・ 講義「国際福祉政策論」
日本・イギリス・ドイツを事例として持続可能な介護政策に関する国際的動向およびニュー・パブリック・マネジメントについて講義した。
- ・ **その他**、正指導教員としてM1生1名、副指導教員としてM1生1名、M2生3名を担当。

○ 委員会活動

- ・ 全学学部入試実施委員（4月～7月）、全学国際交流委員
- ・ 学部入試委員（4月～7月）

○ 社会的活動

(1) 委員等

- ・ 高知県社会福祉協議会「指定認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）外部評価審査委員会」委員長
- ・ 高知県保健福祉課「福祉サービス第三者評価推進委員会」オブザーバー
- ・ 高知県佐川町公文書開示審査会委員、高知県佐川町個人情報保護審査員
- ・ 高知地方社会保険医療協議会員
- ・ 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団運営委員会委員
- ・ 社団法人シルバーサービス振興会 平成19年度長寿社会福祉基金事業「介護サービス事業者における経営品質のあり方に関する調査研究事業」委員
- ・ 社会政策学会春季大会企画委員（同学会保健医療福祉部会選出）

(2) 公開講座等

- ・ 高知県社会福祉士会 STEP-UP 研修会 講師「生活問題と社会～見えるところ（実践）と見えないところ（社会のしくみ）をつなぐ～」平成20年2月9日（土）

○ 総合評価と今後の課題

- ・ 年度後半は学外での研修・出張期間が長かった。まず、平成19年10月22日より12月29日まで、学外中期研修としてイギリス・ブライトン大学で研修をおこなった。さらに、国際交流委員会のエルムズ大学短期研修の引率として、平成20年2月26日～3月10日まで渡米した。ユニバーサル財団の研究助成および大学の中期研修助成を受け、ブライトン大学では「デモクラシーと参加」という講義に参加するとともに、同大学バーンズ教授のご厚意により、高齢者の参加に係わる様々な団体を訪問できた。日本の地において公文書や専門研究誌による情報収集ではわからない、現地の事情や関係者の意見を聞いたことは大きかった。今後、研究成果としてとりまとめることが課題である。
- ・ 今年度から大学院の講義を単独で担当するとともに、正指導の学生を1人担当することとなった。院生のニーズや現代の福祉領域の研究課題に対応した講義内容、また正指導学生への効果的な教授法についてより研鑽が必要である。

玉里 恵美子

Emiko TAMAZATO

○研究活動

(1) 論文 (単著)

玉里恵美子「過疎山村地域におけるムラ意識の構造—多変量解析によるアンケート調査の分析—」『高知女子大学紀要・社会福祉学部編』第57巻、2008年3月、15～28頁。

(2) 研究ノート (単著)

玉里恵美子「検証 室戸市地域福祉計画策定プロセスを振り返って」全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)『高知室戸イズム宣言！—住民と自治体の知恵で築く地域福祉力—』別冊 Juntos 4、2007年7月、48～49頁。

(3) 研究助成

平成19年度高知女子大学学長特別枠研究助成費「高知発 地域福祉実践」(代表 田中きよむ)

(4) 研究報告書 (共著)

平成19年度高知女子大学学長特別枠研究助成費『高知発 地域福祉実践 研究報告書』(2008年3月)において、玉里恵美子「過疎地域における地域福祉計画策定の意義と課題—高知県室戸市での策定プロセスを通じて—」。

(5) 教育報告書 (共著)

社会福祉援助技術演習Ⅳ グループ報告書『社会福祉学部在学学生を対象にした調査』2008年3月。

○教育活動 (2007年度は後期のみ)

(1) 学内担当講義

社会福祉援助技術各論Ⅱb

社会福祉援助技術演習Ⅳ

社会調査演習Ⅰ

家族社会学

地域社会学

(2) 高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座講師

「田内千鶴子さんを知っていますか？」(12月1日)

(3) 学内学生活動支援

グローカルクラブ (日韓学生よさこいチーム Japarean) 顧問

高知女子大学援農隊 顧問

(4) 学外非常勤講師

高知大学教育学部 地域社会学概論 後期

高知大学共通教育 社会学を学ぶ 後期集中

教育研究活動年度報告書

○委員会活動（2007年度は後期のみ）

（1）学内委員会活動

1. 全学地域創成委員会
2. 全学入試実施委員会

（2）学外委員会活動

1. 高知県農林水産部：高知県農業経営・生産対策等に関する第三者委員会
2. 高知県社会福祉協議会：評議会（評議員）
3. 高知県社会福祉協議会：高知県社会福祉協議会60年史作成委員会
4. 高知県社会福祉協議会：高知縣市町村社会福祉協議会活動指針策定委員会
5. NPO 高知市民会議&四国銀行：高知市まちづくりファンド運営委員会
6. 大豊町：大豊町行政文書開示審査会委員
7. 大豊町：大豊町行政諮問会議
8. 高知田内千鶴子愛の会

○その他

育児休業

2006年12月11日から2007年7月31日まで

西内 章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

・論文

1. 西内章 (2008) 「高齢者生活支援における社会福祉士が自問する内容とその構造」
高知女子大学紀要, Vol. 57, 45-51.

・その他

1. 「高知県域における社会福祉士及び精神保健福祉士のための地域内研修システムの構築」(高知女子大学 平成19年度学長特別枠研究助成費、研究者代表者住友雄資、その他研究者西内章・鈴木孝典・西梅幸治・太田こずえ)

○教育活動

[学部]

- ① 「社会福祉援助技術総論Ⅰ」
- ② 「社会福祉援助技術総論Ⅱ」
- ③ 「高齢者福祉論Ⅰ」
- ④ 「高齢者福祉論Ⅱ」
- ⑤ 「社会福祉援助技術各論Ⅰ-b」
- ⑥ 「社会福祉援助技術演習Ⅱ」
- ⑦ 「社会福祉ふれあい実習」
- ⑧ 「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ⑨ 「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」
- ⑩ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ⑪ 「社会福祉専門演習Ⅰ-a」「社会福祉専門演習Ⅰ-b」

[大学院人間生活学研究科]

- ① ソーシャルワーク論
- ② 人間生活論演習Ⅱ

○委員会活動

- ① 学部実習委員長
- ② 学部入試監査委員
- ③ 高知女子大学社会福祉研究倫理専門審査委員

○社会的活動

[学外での活動]

- ・ 高知県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契約締結審査委員
- ・ 平成19年度高知県保健福祉フォーラム実行委員

[研修会講師]

- ・ 高知県社会福祉士会 STEP-UP 研修講師「コミュニケーション・スキルの活かし方(1)」
- ・ 平成19年度高知県保健福祉フォーラム ワークショップ講師「地域生活のエコシス

教育研究活動年度報告書

テム理解と関係を学ぶ」

○総合評価と課題

2007年度より大学院人間生活学研究科（修士課程）の担当になったこともあり、これまで以上に、教育活動、学内業務、研究活動を効率的に進めていくことが重要となっている。

特に喫緊の課題として、実習関連科目の実施体制・教育内容を見直し、新たな実習体制を構築しなければならない。2007年11月に社会福祉士及び介護福祉士法が改正され、社会福祉士、介護福祉士の教育カリキュラムが見直され、演習・実習科目の一体的な実施、適切な実習指導等を行うことになった。本学部の実習についても、厚生労働省が示す新たな指定規則に沿いながらも、少人数教育の特性を活かした実習プログラムづくりに努めた。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

(1) 学術論文

鈴木孝典「精神科長期入院者の地域移行支援に係るアセスメントー「ソーシャルワーク・アセスメント」と「リスクアセスメント」との概念比較からの考察ー」『鴨台社会福祉学論集』No. 17、2008. 3、pp. 1-10.

(2) 著書

鈴木孝典「居住に関連した社会資源」佐藤光源ほか編『統合失調症の治療ー臨床と基礎ー』朝倉書店、1007. 10、pp. 152-154.

(3) 発表

なし

(4) 競争的資金の獲得

科学研究費補助金 (若手(B)、課題番号:19730363、平成19年度～21年度)

研究代表者: 鈴木孝典

研究課題名:「精神障害者に対する自立支援サービスにおけるリスク評価尺度の開発研究」

平成19年度学長特枠研究

研究代表者: 住友雄資

研究課題名:「高知県域における社会福祉士及び精神保健福祉士のための地域内研究システムの構築」

○教育活動

(1) 講義

1. 共通教育科目

- ①「教養セミナー」
- ②「現代社会論」

2. 専門教育科目

- ①「地域福祉論」
- ②「精神保健福祉論」
- ③「精神保健福祉援助実習」
- ④「精神保健福祉ふれあい実習」
- ⑤「福祉研究法Ⅱ」
- ⑥「社会福祉専門演習Ⅰ-a」、「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ⑦「社会福祉専門演習Ⅱ-a」、「社会福祉専門演習Ⅱ-b」

(2) 講義以外

1. 実習支援

配属実習に備えての実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、受験対策講座を開講した。

教育研究活動年度報告書

○委員会活動等

- (1) 学部
 1. 教務委員
 2. 実習委員
 3. 総務・予算委員
 4. 2回生学年担当
- (2) 全学
 1. 学生委員（学部委員長）
 2. 共通教育専門委員（全学副委員長）
 3. 総合情報センター情報処理部会員

○社会的活動

- (1) 委員等
 1. 高知県社会福祉士会 理事
 2. 高知県精神医療審査会 委員
 3. 日本精神保健福祉士養成校協会 広報委員
 4. 高知県自立支援協議会委員（2008年2月～）
- (2) 講演等
 1. 日本精神保健福祉士養成校協会全国研修会 話題提供者（7月1日）
 2. 高知女子大学社会福祉学部 オープンキャンパス:模擬授業 講師（8月1日）
 3. 高知県社会福祉士会ミニ研修会 話題提供者（9月10日）
 4. 平成19年度 高知県相談支援従事者初任者研修 講師（9月11日）
 5. 高知県社会福祉協議会 介護福祉士養成講座 講師（10月2日）
 6. 高知県社会福祉士会 step up 研修会 講師（3月1日）
 7. 神奈川県足柄上保健福祉事務所 介護保健事業所におけるリスクマネジメント研修会 講師（3月14日）

○総合評価及び今後の課題

(1) 授業について

今年度より新たに担当する科目もあり、昨年と同様に授業準備に追われる1年間であった。講義科目においては、学生の効率的で統合的な理解を支援することを目的に、パワーポイントやビデオなどの視聴覚教材を多く活用した。演習、実習科目では、学生自身が学習に対するモチベーションを維持しつつ、主体的に学びを深めることができるよう、グループ学習とプレゼンテーションの機会を適宜、設けた。

今年度の課題であった、学生による授業評価や教材評価など授業の改善に向けた取り組みについては、リアクションペーパーを一部の授業で導入し、課題達成に努めた。しかし、記入時間の確保や学生の負担など新たな課題を捉えた。以上を踏まえ、次年度については、授業及び学生の学びへの影響を考慮した意見集約を図り、更なる授業改善に取り組みたい。

(2) 研究活動について

今年度は、新たに科学研究費補助金（若手B）を獲得し、これまでの精神保健福祉領域のサービスに係るリスク研究を更に発展させることを目標に研究活動を進めてきた。そのなかでは、理論基盤の強化やリサーチクエッションの深化など一定の成果を得ることができた。次年度はフィールドワークを中心に、実践理論の構築を目指すことが課題である。

また、今年度の課題であった高知県をフィールドとした研究活動については、社会的活動を通して、県内保健所等の行政職員やサービス従事者とのコミュニケーションを図り、研究基盤の構築に努めた。次年度は、具体の研究活動を地域の実践者と協働して企画し、実施することを課題とする。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

(1) 学会参加

日本社会福祉実践理論学会、日本医療社会事業学会への参加

(2) 研究会参加

エコシステム研究会 (関西福祉科学大学大学院太田義弘教授が主催) への参加

(3) 研究資金の導入

文部科学省科学研究費若手研究 (B) 「コンピュータ支援ツールを用いた知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」(平成19～21年度)

○教育活動

(1) 担当科目

- ・「総合演習」
- ・「社会福祉基礎演習」
- ・「社会福祉援助技術各論Ⅱ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-a」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-a」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「社会福祉現場実習Ⅱ」
- ・「社会福祉入門演習」
- ・「社会福祉援助技術各論Ⅰ-a」
- ・「社会福祉援助技術演習Ⅰ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ-b」
- ・「社会福祉専門演習Ⅱ-b」
- ・「社会福祉現場実習Ⅰ」
- ・「社会福祉現場実習Ⅲ」

○委員会活動

(1) 全学

- ・入試実施委員
- ・センター試験部会委員
- ・人権委員

(2) 学部

- ・入試委員長
- ・総務・予算委員
- ・実習委員 (日本社会福祉士養成校協会担当)
- ・学部1回生学年担当

○社会的活動

- ・日本社会福祉士養成校協会中四国ブロック 運営委員
- ・高知県社会福祉士会 Step up 研修 講師
- ・高松大学発達科学部 非常勤講師

○総合評価及び今後の課題

(1) 研究活動について

今年度は、本学部教員として2年目で昨年に引き続き、教育活動や委員会活動に慣れ専念することが最優先であった。そのため研究活動については、学会・研究会参加にとどま

教育研究活動年度報告書

り、結果的に十分な時間を割くことができなかつた。しかし特に研究会では、社会福祉サービス利用者の生活状況理解のための方法と、その方法に基づいたコンピュータ支援ツールの研究と開発に継続的に参加できており、有意義な時間をもつことができた。今後は共同研究者とその成果を公表していきたい。そのうえで自身の研究テーマ「コンピュータ支援ツールを用いた知的・発達障害のある人との協働アセスメント方法の構築」を進展させていきたい。今年度は、文部科学省科学研究費を獲得できたため、先行研究のレビューを行うことができた。今後は、研究フィールドの開拓などによって、研究・調査環境を整えていきたいと考えている。

(2) 教育活動について

授業準備：

授業では、レジメを作成・配布し、学生が重要なポイントを理解できるように工夫した。またレジメの他にも資料を配付し、学生の理解度を高めるように努力したつもりであるが、今後も継続した改良が必要である。また社会福祉に関する DVD を用いて、口頭では伝えきれない時代背景や障害の実態、生活支援状況などを視覚的に学ぶことができるように工夫した。

授業展開：

授業のなかでは、学生たちの「聞く」「見る」「書く」「話す」をバランス良く表現でき、「理解する」「考える」「体験する」ことができるような工夫が必要だと感じている。また特に援助技術系の科目については、理論と事例検討を交えながら講義を進めるなど、理論と実践を十全に融合し理解できるような工夫を今後も重ねていきたいと考えている。

社会福祉現場実習指導：

まず事前学習では、ソーシャルマナーや記録の書き方、個人情報保護についての学習を基礎に、実習への動機を高め、効果的な実習を行うための指導や相談を今後も丁寧に行いたい。そのためにも高知県下の実習先についての情報を継続的に把握することが重点課題である。また事後学習については、現場で得てきた経験のふり返りや意味づけを重視した指導に努めたい。実習の事前・事後学習ともに、少人数制を活かし、face-to-face での個別指導や、学生同士がお互い共感や考え方を深めていくことができるようなグループ学習・グループスーパービジョンを重視し、その効果についても検討していきたい。

卒論指導：

今年度は、4名の学生の指導を行った。研究テーマについては、以下の通りである。

- ・「高齢者の在宅生活における動物介在の意味—家族・近隣住民との交流過程に着目して—」
- ・「高齢者を対象とした小地域ネットワーク活動に関する一考察—ソーシャル・サポート・ネットワークの役割と機能からの分析を通して—」
- ・「認知症高齢者が抱える不安に対する職員の気づきに関する研究—グループホームケアに着目して—」
- ・「認知症高齢者へのレクリエーションに関する一考察—アレンジ方法に着目して—」

(3) 委員会活動・社会的活動について

本年度は、特に入試実施委員としては、責任のある役割を十分に果たし得たかは定かではない。特に課題図書を選定・情報提供について課題を感じている。今後も努力と経験を重ね、委員会活動・社会的活動を通じて、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

新藤 (太田) こずえ

Kozue OTA-SHINDO

○研究活動

- (1) 論文 (なし)
- (2) 著書 (なし)
- (3) 発表 (2件)

太田こずえ「身体障害のある若者の生活と自立に関する一考察」日本社会福祉学会第55回全国大会、2007年9月

太田こずえ「(書評) レスター・サラモン著『NPOと公共サービス』(ミネルヴァ書房)」第2回地域政策研究会、2008年2月

- (4) 学内外の競争的資金の獲得状況 (2件)

文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))「親と暮らす障害のある若者の自立に関する研究—日常生活構造と将来生活設計に着目して」(研究代表者 太田こずえ)(平成19年～21年度)

高知女子大学学長特別枠研究・事業助成費「高知県域における社会福祉士及び精神保健福祉士のための地域内研修システムの構築」(研究代表者 住友雄資)(平成19年度)

○教育活動

講義：社会福祉ふれあい実習、社会福祉現場実習Ⅰ、社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ
精神保健福祉ふれあい実習、精神保健福祉援助実習
社会福祉特論、福祉の世界(オムニバス)

○委員会活動

全学広報プロジェクト委員会、
学部教務委員会、学部入試委員会、学部実習委員会、
学部総務委員会、学部予算委員会

○社会的活動

- (1) 委員等

- ・特定非営利活動法人「飛んでけ!車いす」の会理事
- ・高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員
- ・高知県社会福祉協議会 福祉教育・ボランティア学習推進委員会副委員長
- ・高知県NPOと行政との協働推進事業審査会委員

- (2) 学外講師

- ・国立病院機構高知病院附属看護学校非常勤講師(「社会福祉・演習」を担当)
- ・高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師(「社会福祉援助技術」を担当)
- ・高知県社会福祉士会主催「社会福祉士Step up研修会」講師(「利用者、家族、支援者の利害がぶつかったとき～ディレンマの構造をどう考えるか～」を担当)

(3)公開講座等

- ・高知女子大学社会福祉学部「高校生のための公開講座」講師（「ボランティアとNPO」を担当）
- ・こうちNPOフォーラム2007実行委員会ほか主催「こうちNPOフォーラム2007 高知を拓くNPO～『加わる』10年から『生きる』10年へ～」実行委員、「地域の元気づくりのヒントを見つけよう！～NPOと地域団体が考える高知の未来～」の司会を担当）

(4)社会福祉士および精神保健福祉士国家試験を受験する学生たちへの支援活動

- ・国家試験ガイダンスの実施（3回）
- ・試験対策講座の実施（障害者福祉論）
- ・模擬試験（4回）の受験を取りまとめ、毎回受験後にアンケートを実施し、その内容に基づいて個別に学習アドバイスを行った
- ・国家試験勉強合宿（2泊3日）へ同行し、学習支援を行った

○総合評価と今後の課題

まず教育活動は、おもに実習関係の講義や事務業務を中心に仕事をすすめてきた。本学部が開講するすべての実習科目の実習の事前・事後学習に携わっているが、今年度から担当している精神保健福祉援助実習においては、試行錯誤の状態であった。今年度の経験を生かしてよりよい実習サポートを行っていきたい。

次に研究活動は、今年度から科学研究費（若手研究B）を獲得することができたものの、成果として残すことができたのは2件の発表のみである。研究にかけられる時間が極端に少ないので、教育・研究をバランスよく行うことが自分としての課題である。

また社会的活動は、NPO法人「飛んでけ！車いす」の会の高知女子大学サークル「いけとべ！」の顧問として活動を行うことができた。思いがけず、本学部OGが青年海外協力隊として派遣されているガーナに車いすを送ることができた。また学生二人がタイに車いすを運んだ。次年度も学生たちの地域貢献と国際協力を結びつけた活動を支援していきたい。

最後に、4年生の国家試験受験の支援である。本学部では、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格をめざす学生たちが自主的に学習活動を行っているが、教員側からの支援として、国家試験勉強に向けた環境づくりや国家試験勉強の学習支援を行った。具体的には、国家試験の事務手続きに関するスケジュールや模擬試験・テキスト等に関する情報提供および模擬試験の実施準備の協力、学生が企画した国家試験対策講座の講師を務めるほか、日常的に試験科目の学習支援を行い、勉強の方法についての相談に応じるなどである。今後の課題としては、学生たちの自主的・自発的な学習活動を基本としながらも、個別的な働きかけを必要とする学生たちについては、学年担当をはじめ、ゼミ教員なども含めて、どのようなサポートが行えるのかを考えなければならないと思う。このことは学部として検討していく必要があると考える。